（様式１）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ０２８	**提案機関名**	農業技術センター 横浜川崎地区事務所

要望問題名　トマト果実の裂果発生原因究明と対策について

要望問題の内容　【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】

横浜市、川崎市は直売を中心とした地産地消が盛んな地域であり、その直売においてトマトは販売量、額ともに占める率が高い作目である。

しかし、施設で栽培されるトマトを中心に、６月以降は果実における裂果がみられるようになり、８月になると裂果による廃棄量も増す状況である。

トマト果実の裂果についてはこれまでも各県や試験研究機関が調査研究を行い、知見が集まってきているが、実際の生産現場における根本的な解決には至っていない。

出荷量を安定させ、生産のロスを少なくし農家経営の安定への一助とするためにも、トマト果実における裂果発生の原因究明と効果的かつ現実的な対策が望まれている。

平成２２年度セレサモストマト販売額42,398千円(地場産36,802千円、仕入れ5,596千円)

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	野菜作物研究部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

ご存じのとおり、トマト果実の裂果は果実の肥大速度が果皮の伸長限度を超えることにより発生します。これにはいくつかの要因が想定され、要因ごとの対策が考えられます。一方、これまで数多く行われた試験研究は、特定の栽培条件における主因とその対策の確立に力を注いでおり、成果を適用するには条件の一致を確認する必要があります。そこで、まず現地での発生消長と程度、分布状況（戸数、面積等）、発生圃場における耕種概要等の関連調査をお願いします。それをもとに、発生要因の特定と対策技術の確立について有効な知見を提供し、なお不明な点について試験を計画してまいります。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	